

456 中央大学運動会

〔『法学新報』第27巻5（308）号 大正6年5月1日〕

○中央大学運動会 花吹雪して全都の市民を狂せしめし桜花空しく地に落ち緑の衣樹樹の梢を彩り天地の翠色將に滴らむと欲す此時に当りて我中央大学は去る四月二十二日（日曜日）春季陸上運動会を挙行せり此日天気晴朗絶好の運動会日和中野原頭萌え出つる若草小さき葉末に滴る水玉に朝日麗かに七色を映し春風そよかに梢を払ひ実には身心爽快を覚ゆ場内を見渡せば万国国旗を蜘蛛の巣を張りたるか如く縦横に裝飾し正面会長席を中心に左右数棟の天幕あり又各科学生席には青白赤の旗幟へりて今や競技を待ち顔なり其間を委員来りて右往左往に奔走するあり人夫の忙しく働くを見る兎や角やする内準備全く成りぬ劉亮

たる楽隊勇勇しく行進曲を中野の原に送り空飛ぶ鳥も之に和し道行く人も自ら歩調を取るもあり時移るに従ひ学生観衆轟轟と集りて場内は刻々緊張す轟然一発の砲声響き渡り先つ二百米突の競走開始せり嗚呼我三千の健児日頃の修学も打忘れて一日の快を貪らんとはその心や称すへきなり意気衝天雄雄しき妙技一つとして可ならざるはなく競技は漸次進行し「ランニング」に速力を争ふものあり千鳥、兎飛、戴囊、砲丸投、天狗、毬拾競争等の技を主とするあり英語綴、暗算競争等にて己か智識の発達を誇るものあり巡礼、仮装、関所、鱈握、麴麴喰競争等の滑稽頤を解かしむるもあれは勇ましき障碍物競走に観客の肝も失せよと許り猛烈なるものあり特に今回特筆すへきは剣道部師範今泉氏障碍物にて衆を排して先著せられたるは運動界に模範を示さるる効大なりと云ふへし午前十一時三十分頃場内より拍手類に起れり是れ当日の会長たる奥田博士の臨場せられたるなり又同時に体育部長太田資時氏も来場せらるる競技中は絶え間なく煙火は打上げられ中央タイムスは本紙以外の号外を印刷して頻に発行し其数十有る回数と聞く内に奥田学長の一文あり曰く「今日中央大学の運動会に臨み会員諸君か溢るる許りの勇気を以て活動せらるるを見喜ひに堪えず国家の前途は諸君青年の双肩にあり諸君奮励努力せよ」云云諸君元気を振興し裙釵の流とならずして己か心身を練磨し以て他日報国の臣となれ午後一時頃には観衆場内に満ち満ちて立錐の余地なし此時各科仮装行列現はれ滑稽奇抜抱腹絶倒喝采至らざるなく就中商科一年級の大久保彦左衛門盃登城行列は最も秀てたりと称せらるる小学校生徒競走

は短き小さな足もて走る様はさながら玉を転はすか如く各中学校選手各専門学校選手競走は観客の注目せる所にして悠然「スタート」に立ちて相図を待つ間もなく奮然飛走前となり後となり遂に勝敗を決せり優勝者は応援者に囲まれ喜ひ溢るる面にて各席に就く其得意思ふへし頃しも午後四時頃なりけり場内俄に色めき白青赤の小旗手に打振り応援の歌各所に起り其声天地を震動す是れ当日呼ひ物たる対科選手競争の始まらんとするなり己か科に勝利を夢み年来商科の有せる優勝を敗り以て会稽の恥を雪かんとする法経科の意気名状すへからず殊に経済科に至りては来る日に挙行さるへき極東オリンピック競技会へ出場せしむる選手岡田源三郎君を得たる故本年は我科に勝利は有りとの自信面に表はれ手の舞ひ足の踏むを知らざるほどの応援なりさは去り乍ら天道は親なく勝敗は時の運なり何れに軍配扇か上るか知らず時に至り選手は正に「スタート」に立ちぬ号砲鋭く天を衝き飛走しぬ一回二回愈応援猛烈にして勝敗又予測し難し五回目には商科の村上嵩君衆を抜く然れとも六回目に到りて遂に経済科の岡田君に敗られ予期せる如く此科に月桂冠は落ちぬ次いで商科村上君法科大町君と相次きたり而して美しくしき花輪は選手岡田君の胸に懸けられ楽隊を先頭に選手校旗応援団の順序にて場内を一週せり之に反して商法科各選手は切齒扼腕して一番努力他日を期する覚悟眉宇の間に見はれたるもことばりなりこれにて本日の運動会も目出度く閉会するや時に午後五時三十分永き春の夕陽西山に傾き四方微かに薄雲たなびく頃三三五五楽しかりける今日の日を語り合ひつつ家路にと急ぎぬ

(片山生投)

因に入賞者其数多き中に就き特筆すべきものは左の如し  
○各中学校選手競走

一分五十三秒

一、豊島師範 田子君  
二、暁星中学 平野君  
三、麻布中学 成田君

一分五十五秒

早稲田実業 別府君  
豊島師範 加藤君  
商工中学 鈴木君

専門学校選手競走

一分三十五秒

日齒 山内君  
高師 竹内君  
早大 鈴木君

○対科選手競走

三分四十八秒

経済科 岡田源三郎君  
商科 村上 嵩君  
法科 大町卯六君